



理事長:宮崎 隆

6月の総会で理事長を拝命した宮崎 隆（昭和学士）です。2年間、宜しくご協力お願い申し上げます。

本協議会には設立時から関わり、赤川理事長、山根理事長の下で総務担当の副理事長を務めてきました。専門は歯科理工学です。「器材は歯学を貫く」というキャッチフレーズがあるように、歯科材料・器械の改良・開発が歯科臨床の発展に貢献してきました。一方で、歯科材料は生体環境下で生体との反応を制御する必要があるため、材料学と生物学がドッキングする時代になりました。従って専門の日本歯科理工学会だけでなく、多くの学会と連携して活動をしています。学会間が連携し、研究者が交流することにより、研究の発展が期待されます。私の選出母体の昭和学士会は昭和大学全体のいわゆる学内学会ですが、医・歯・薬・保健医療学部の連携のもとに医療・医学という共通のベースで研究活動をしています。歯学協の特徴は多様な歯学系学会から構成されていることです。超高齢社会に突入して病院内や地域における医療連携が重要になってきました。今後は従来の歯科の範疇を越えた幅広い学会連携の重要性が益々高まると思います。ホームページを通じて、会員学会の活動は公開されていますが、今後は本ニュースレターも活用して、会員間の連携を一層深めたいと思います。

今期の役員の顔ぶれと、役割分担をご紹介します。

**渉外担当：** 日本歯科医学会、日本歯科医師会、行政など、他の器官との調整  
(安井常任理事・羽村理事)

**庶務・財務担当：** 事務局との連携、一般庶務、財産管理など  
(森戸常任理事)

**広報担当：** HP管理、ニュースレター編集、マスコミ対応など  
(森戸常任理事・千田理事)

**企画担当：** 学術会議関係セミナー、会員間意見交換会、講演会の開催  
(矢谷常任理事・笹野理事)

**政策提言担当：** 研究、衣料、教育の提言、リーフレット編集、シンポジウム企画、プロシーディング編集  
(佐々木副理事長・朝田副理事長・永田理事・植田理事)

**医療問題担当：** 歯保連への支援  
(今井常任理事・丹沢理事)

**専門医制担当：** 新しい制度の設計と運営  
(木村常任理事・渡邊理事)

**特別会員：** 山口学術会議会員、古谷野学術会議会員

**監事：** 小林義典先生、中島信也先生

平成26年度の活動計画

- ① 日本学術会議との連携をもとに、政策提言の立案と提案
- ② 加盟学会の連携・協力のもとに、歯学系研究・教育・医療の推進およびその成果の普及に関する国民、行政、アカデミー、医療界、産業界への提言
- ③ 口腔機能、並びに歯学系研究・衣料の重要性についても国民への情報提供
- ④ 学際的協力による先端医療技術開発の推進
- ⑤ 歯学系学会の立場での医療問題に関する学術的根拠の策定
- ⑥ 総会、シンポジウム、講演会等の開催
- ⑦ 会員相互の共同プログラムの推進
- ⑧ 会員相互の意見交換会の開催
- ⑨ 歯学系学会社会保険委員会連合への協力とサポート
- ⑩ 歯科における専門医制のあり方の検討

これから、NLやHPで活動状況や問題点などを提示させていただきます。

このNLは、手作りを基本にしております。役員からではなく、会員からの声も掲載したいと考えています。また、役員のメッセージも随時掲載いたします。（担当：広報担当森戸・千田）

## 1. 自己紹介

昭和35年生まれの東京都出身です。昭和61年に日本大学松戸歯学部を卒業後、平成13年に鶴見大学歯学部小児歯科学講座教授に就任しました。学会活動としては、一般社団法人日本小児歯科学会理事長を2期4年(平成20年5月から平成24年4月)務めました。理事長在任中は専門医制度の充実を図るとともに、医療倫理に関する学会の姿勢を明確化するための医療倫理審査委員会ならびに医事紛争評価実施委員会を立ち上げました。さらに、妊産婦歯科健診、子ども虐待防止への対応、食育支援事業など社会との連動という視点の中で、提言やガイドラインの作成にも取り組みました。一方、鶴見大学においては、平成24年4月より歯学部附属病院病院長を拝命しました。趣味は登山(平成26年夏、北アルプス奥穂高岳3,190mを踏破)、卓球、ボーリングです。



## 2. 歯学協に向けての自分の思い

日本歯学系学会協議会の事業の中で、とくに優先すべきものとして日本学術会議との連携をもとにした政策提言、加盟学会の連携・協力のもと国民への歯科医療の重要性のアピール、歯科における専門医制のあり方の検討が挙げられます。日本歯学系学会協議会は、日本で唯一の歯科関連学会の連合組織であり、その特徴を最大限に発揮すべきだと思います。また、大学歯学部や歯科大学の歯学会も数多く参加していることから、歯科医学教育の将来像を検討する組織としての役割も大きいと考えられます。さらに、将来的には歯科関連学会の定義を柔軟に解釈し、口腔ケア、食育支援そして口腔育成と関わりのある専門職種の見直し、保育士、栄養士などの参画も推進すべきではないでしょうか。今までにない柔軟性と機動力を発揮し、日本の歯科界を牽引することが歯学協の使命であり、微力ながら貢献していきたいと思っております。

渉外担当常任理事を拝命しております一般社団法人日本口腔衛生学会選出の明海大学の安井利一です。本協議会には赤川安正先生に誘われて発足時から理事や常任理事で参画させていただいています。日本学術会議との連携を強く意識している点と、大学所属学会を含め大小様々な学会が参画する点で、非常にユニークな協議会だと思っています。これまでの本協議会の活動の中で、もっとも我が国の歯科界に貢献してきたことは歯学系学会社会保険委員会連合(歯保連、今井裕 会長)の基盤づくりであったと思います。歯科界のフレームにかかわる活動であり、将来的にも大きな意義を与えたと確信しています。それは日本歯科医師会や日本歯科医学会とは別の形で、医科の内保連や外保連のように直接的利害関係の持たない形での組織化が出来たということです。本協議会の活動は、このように歯科界全体の中で「本協議会だからできる」ことを希求していく姿勢が大切だと思います。渉外担当としては、本協議会の独自性を推し進めながら、関係諸団体との良好な関係を保持し、歯科界全体の輪の中で機能するように段取りすることだと思っております。歯科界は大きな転換期を迎えています。それは、人口構成の急激な変化と疾病構造の変化、そして国民総医療費の課題に起因しております。欧米諸国に比較して4倍に近い速さで高齢化が進展している我が国において、先達はいませんから、当然のことに歯科界独自で国民の歯科医療保健そして福祉の在り方を創造していかなければなりません。実践・行動なくして変化はありません。活動の総体としてのアウトカムをしっかりと意識しての継続的な実践活動が必要です。会員の皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。



事務局: 口腔保健協会内  
〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル  
電話: 03(3947)8891  
E-mail: [gakkai18@kokuuhoken.or.jp](mailto:gakkai18@kokuuhoken.or.jp)  
URL: <http://www.ucjds.jp/>

神奈川歯科大学を卒業後、千葉大学、獨協医科大学と40年余に渡り「医学と歯学の融合」を目指し歩んで参りましたが、本年3月獨協医科大学医学部口腔外科学講座教授を定年退職致しました。この間、一貫して医学部における歯科口腔外科というやや特殊な環境に属しておりましたので、口腔外科学(特に、口腔がんと口唇口蓋裂)を専門領域としておりましたが、有病者の歯科治療あるいは口腔ケアに関しても、恐らくは全国の多くの施設に先駆け積極的に取り組んで参りました。そのような関係から、口腔外科学会(常任)理事、口腔科学会理事・会長、有病者歯科医療学会理事長、口蓋裂学会監事などを仰せつかり、多くの先生方からご指導賜ってきました。現在は、学長先生の命により引き続き獨協医科大学医学部特任教授として奉職させて頂いており、私を育てて戴いた獨協医科大学へご恩返しができるかと努力を重ねているところです。



私と「歯学協」との関わりは、「歯保連」に他なりません。私は、医学会の分科会である口腔科学会から「外保連」の委員として「外保連試案」の作成に関わっておりました。診療報酬の適正、合理的な報酬はどうあるべきか、というものを学術的に追究したものが「外保連試案」ですが、歯科にはこのようなシステムがないため、歯学協がベースになり、同様な組織、すなわち歯学系学会社会保険委員会連合(「歯保連」)をつくる準備がなされました。そして、その責任者には外保連委員である私が適任であろうと、その立場に立たされ、平成21年8月「歯保連」が発足したわけです。以来5年経過いたしました。各学会のご指導とご協力を賜り、紆余曲折を経ながらも「歯保連試案」の冊子化に目途がついて参りました。今後は、「歯保連試案」の精度を上げ、次世代に引き継ぐことが私の最後の務めと考えております。また、ご承知の通り、昨年より日本歯科医学会の副会長に就任いたしました。このような現在の私の立ち位置を熟慮し、今後の歯科界の発展に微力ながら努力して参りますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどお願い致します。